



2020-3-30
No.20-015

報道関係各位

ライオンズが取り組む子ども虐待防止活動
「SAVE THE HOPE」ライオンズ オレンジリボン運動プロジェクト
グッズの売上や募金など 571 万 6879 円を寄付
子ども虐待防止の啓発活動などに活用



贈呈の様子
(左からレオ、当社社長 居郷、吉田理事長、
田沢事務局長、臼井社長、ライナ)



昨年 8 月 21 日に実施した『SAVE THE HOPE』ライオンズ
オレンジリボン運動デー」の募金の様子

株式会社西武ライオンズ（本社：埼玉県所沢市、代表取締役社長：居郷 肇）は、当社のコミュニティプロジェクト「L-FRIENDS」※で掲げている「こども支援」の基本理念である「青少年の健全育成」の一環として、昨シーズン、子どもの虐待をなくすことを呼びかける市民運動「オレンジリボン運動」に賛同し、『SAVE THE HOPE（セイブ ザ ホープ）』ライオンズ オレンジリボン運動プロジェクト」を行い、この度、プロジェクトで集まった寄付金 571 万 6879 円を、認定特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワークに寄付しました。

児童虐待防止全国ネットワークなどの統計によりますと、虐待による児童の死亡事例は年間 50 件を超え、1 週間に 1 人、子どもが命を落としています。さらに、2018 年度の児童虐待相談対応件数は 15 万件を超え、年々増加しています。このような現状を知り、野球を通じて子どもたちを救いたいという思いから、本プロジェクトを立ち上げました。

昨シーズンは、オレンジリボン運動の啓発や支援活動を目的として、球団オフィシャルサイトなどで監督や選手のメッセージ動画を放映したほか、8 月 21 日の北海道日本ハムファイターズ戦で『SAVE THE HOPE』ライオンズ オレンジリボン運動デー」を開催。監督、コーチ、選手がオレンジリボンのロゴが刺繍されたオリジナルキャップとオレンジカラーのユニフォームを着用して試合に臨んだほか、募金活動やチャリティーグッズの販売も行いました。

募金とチャリティーグッズの売上の一部、シーズンオフに行った監督・選手・コーチが着用したユニフォームとキャップのチャリティーオークションの売上の一部を合わせ、寄付金額は 571 万 6879 円となりました。

また、本プロジェクトにご賛同いただき、当社とパートナーシップを締結していただいた au じぶん銀行株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：臼井朋貴）からも、昨年 7 月から今年 2 月末まで実施した「au じぶん銀行オレンジリボン運動募金」で集まった 75 万 7837 円を同団体に寄付しました。

これらの寄付金は、子ども虐待防止の啓発のための事業、オレンジリボン活動の運営などに充てられます。ご支援いただきました皆さまに厚くお礼申しあげます。

なお、今シーズンも引き続き、au じぶん銀行株式会社にサポートいただき、『SAVE THE HOPE』ライオンズ オレンジリボン運動プロジェクト」を実施する予定です。

詳細は決まり次第、お知らせします。

※L-FRIENDS とは…2018 年 3 月より当社が行っているコミュニティ活動の総称。
これまでの「野球振興」「こども支援」「地域活性」に、2020 年
4 月から新たに「環境支援」の取り組みを加え、4 つの柱とし
て、よりすこやかな社会、のびやかな未来を目指しさまざまな
活動を行います。



◆オレンジリボン運動とは

「オレンジリボン運動」とは、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。

認定特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワークがオレンジリボンの総合窓口を担っており、オレンジリボンの普及を通じて全国的に、子ども虐待への関心を広げる啓発活動を実施しています。
(<http://www.orangeribbon.jp/zenkokonet/>)

◆au じぶん銀行株式会社

代 表 者：代表取締役社長 臼井 朋貴

所 在 地：東京都中央区日本橋 1 丁目 19 番 1 号日本橋ダイヤビルディング 14 階

設 立：2008 年 6 月 17 日

事業内容：インターネット専業銀行

資 本 金：625 億円

従業員数：362 人（2020 年 1 月 1 日現在）

U R L：<https://www.jibunbank.co.jp/>



○au じぶん銀行株式会社代表取締役社長 臼井 朋貴さまコメント

今年度、初めて協賛させていただきました「オレンジリボン運動プロジェクト」において、2019 年度の活動を無事終了することができました。同プロジェクトに賛同頂き、活動のご支援や、募金にご協力いただきました皆さまに、深く感謝致します。本当にありがとうございました。

来る 2020 年度におきまして、au じぶん銀行は「青少年の育成」をテーマに掲げ、社会貢献活動・SDGs に一層力を入れて取り組んでいきたいと考えており、「オレンジリボン運動プロジェクト」についても、引き続き協賛させていただくことにいたしました。次世代を担う子どもたちの健全育成・支援を行っていく中で、わたしたち au じぶん銀行も、社会の持続的成長に貢献できる会社へと、成長してまいります。

○認定特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク理事長 吉田 恒雄さまコメント

この度は、たいへん貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございます。残念なことに、いまなお、虐待で苦しんでいる子どもたちは少なくありません。私たちは、選手の皆さまをはじめ関係の皆さまの、子ども虐待防止に対する熱い思いをしっかりと受け止め、一日もはやく「子ども虐待のない社会」が実現するよう、オレンジリボン運動を進めてまいりますので、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

○株式会社西武ライオンズ代表取締役社長 居郷 肇コメント

ライオンズ オレンジリボン運動にご協力いただきましたファンの皆さまに、心より御礼申し上げます。今シーズンも、子どもたちの目が輝き、明るい笑い声が響くボールパークを目指し、“野球を通じて、子ども虐待防止・子育て支援の啓発活動”を継続して行ってまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

○辻 発彦監督コメント

『『SAVE THE HOPE』ライオンズ オレンジリボン運動プロジェクト』にご協力いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

球場では、多くの子どもたちの元気な声援と笑顔があり、私たちはいつも子どもたちに勇気づけられています。野球場が子どもたちの未来と希望にあふれる場所であり続けるために、私たちも継続してこの活動を行っていきます。そして、子どもの虐待のない社会となることを切に願っています。

児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

1. 平成30年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数

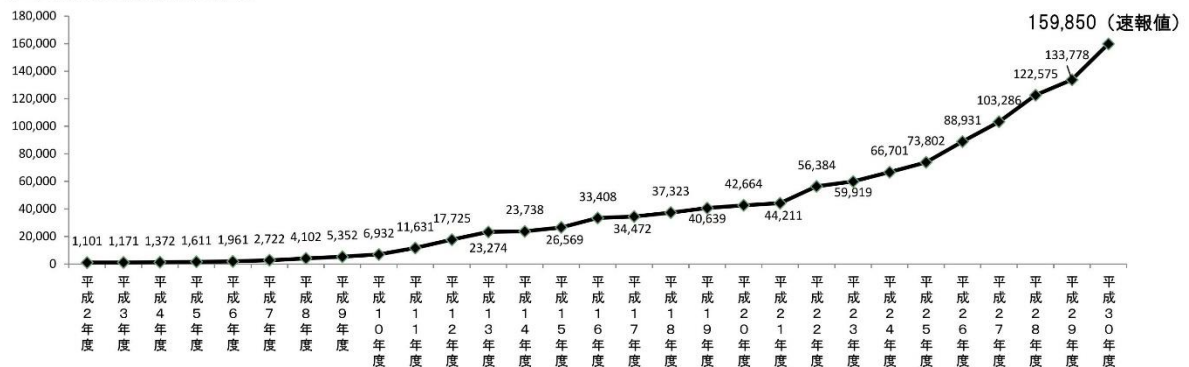
平成30年度中に、全国212か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は159,850件（速報値）で、過去最多。

※ 対前年度比119.5%（26,072件の増加）

※ 相談対応件数とは、平成30年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

※ 平成30年度の件数は、速報値のため今後変更があり得る

2. 児童虐待相談対応件数の推移



年 度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 （速報値）
件 数	42,664	44,211	注）56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,850
対前年度比	105.0%	103.6%	—	—	111.3%	110.6%	120.5%	116.1%	118.7%	109.1%	119.5%

注）平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加（平成29年度：72,197件→平成30年度：88,389件（+16,192件））
- 警察等からの通告の増加（平成29年度：66,055件→平成30年度：79,150件（+13,095件））

（平成29年度と比して児童虐待相談対応件数が大幅に増加した自治体からの聞き取り）

- 心理的虐待が増加した要因として、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力がある事案（面談DV）について、警察からの通告が増加。

【お客さまのお問合せ先】

埼玉西武ライオンズインフォメーションセンター TEL. (0570)01-1950(平日 10時～18時)